



# 地域を一つの農場に 若手農業者が活躍する町

農業EXPOで説明を行う代表取締役社長 この紺野 い久 お雄さん（ブース左）

## 積極的な若手農業者の受け入れ

白鷹町では集落営農モデル地域の指定を受け、地区一体を「どりいむ農園」という一つの農場とみなす構想から、平成16年に「有限会社どりいむ農園」を設立、翌年に「どりいむ農園直売所」が作られ、現在の形となった。運営する紺野社長は、特に若手農業者の育成に力を入れて取り組んでいる。

現在、直売所には20代から30代の若手農業者が16人出荷しており、そのうち県外の出身者は7人。紺野社長は、白鷹町出身にばかりこだわってはいは、今後も経営を続けていくことはできないという考えから、県外の人材を積極的に募っている。東京で行われる「農業EXPO」や「農業人フェア」といった農業への就職イベントにブースを設け、農業に興味がある若者に対して直接PRを行い相談にのる。これをきっかけに3日間程の農業体験から始まり、約2年間の長期農業研修へとつながる。紺野社長は、自身で「紺野農園」という農場を経営しており、この農場で多くの研修生を受け入れ、自立後、そのまま町内に定住する研修生も多い。この受け入れは、平成10年から始めており、多くの若手農業者を育ててきている。

この地域では、田だけでなく、畑地や果樹地の面積の割合が多く、専業農家、兼業農家共に多種多様な作物を生産しており、冬はハウスでの栽培や加工品の種類も豊富であるため、一年を通して品目には困らない。つまり、選択肢が多いということ。また、紺野社長は、昔から野菜の市場があったため、現在も流通の経路が整っていることも、若手農業者育成のための基盤となっていると語る。ぜひ、農業に興味のある若い方にたくさん来て欲しい。

# 一農家として自立するまで

## 就農イベント



年6回ほど首都圏を中心にイベントに参加している。白鷹町を知ってもらう

## 短期体験



収穫、箱詰めといった作業のお手伝いを通し、農業を体験

## 長期農業研修



ベテラン農家の元で、商品の生産から出荷まで一連の流れを学ぶ

## 農家として自立



町の資金支援も整う。毎年1、2人程、県外出身者が就農している

## 若手農業者にインタビュー



### 鈴木 康太さん (34歳)

- ・出身地：神奈川県
- ・平成24年から研修を始め、現在自立している。
- ・農業を行いたいという思いからインターネットで就農イベントを知り、紹介を受け紺野農園で研修を始める。現在は、自立しトマト中心にハウス・露地栽培を行っている。多くの方の支援を受け、現在自立できていることにとっても感謝している。

### 柳内 佑一さん (35歳)

- ・出身地：神奈川県
- ・平成29年4月から長期研修中
- ・東京や仙台の就農イベントブースで紺野社長との出会いから、短期体験を経て現在は長期研修中。前の仕事で、トマトが今後流行っていくと確信。紺野農園ではトマトを中心に栽培していて、栽培技術を学ぶことができ、自分が望むものがある。今後は、トマト栽培を中心とした農家として自立できるよう研修にのぞむ。



○お問い合わせ・ご相談

どりいも農園直売所

山形県西置賜郡白鷹町大字畔藤 9053-30

TEL : 0238-85-2922

